

## モロッコ政治月報（2016年12月）

2017年3月4日  
在モロッコ大使館

12月のモロッコの政治情勢等を、当地報道を中心に以下のとおりまとめました。要人往来については末尾の一覧表をご覧ください。

なお、当政治月報は当月中にメディアで多く取り上げられた話題をその都度記録したもので、これらニュースについての当館及び日本政府の立場を何ら反映するものではありません。

### 【主な出来事】

- ◎（1～3日）モハメッド6世国王のナイジェリア公式訪問
- ◎（21日）EU・モロッコ農業協定にかかるEU司法裁判所判決の発出
- ◎（24日）シャバット・イスティクラル党首の発言

## <内政・政局・治安>

### 1 内政

#### （1）ベンキラン首相に対するモハメッド6世国王からの組閣の加速化の要請

（ア）24日、モハメッド6世国王の命により、メヌーニ国王顧問及びカバッジ国王顧問がベンキラン首相と会談した。この会談の中で、両国王顧問は、ベンキラン首相に対し、早急に新内閣を組閣すべきとする国王の懸念を伝達した。両国王顧問は同様に、新内閣組閣にかかるモハメッド6世国王と全モロッコ国民の期待を伝達した。

（イ）なお、10月10日の首相指名以来、ベンキラン首相はこれまでイスティクラル党（PI）と進歩社会主義党（PPS）の連立参加に意欲を示す一方、連立与党入りの可能性のある独立国民連合（RNI）がPIの連立参加を拒否するとともに、立憲同盟（UC）と人民勢力社会主義同盟（USFP）の連立参加を要請するなど、協議が難航している。

#### （2）第2期難民地位正常化政策の発出

（ア）12日、内務省は、モハメッド6世国王の命に従い、第2期難民地位正常化・統合政策を発出、15日から第2期政策に基づく書類の受付が開始された。内務省は、モロッコ移民正常化・統合国家委員会のコミュニケの中で、国王のアフリカ諸国歴訪中、複数の国家元首が、主にサブサハラ・アフリカ諸国の非正規居住者の経済社会統合を目的とするモロッコの移民政策を歓迎したと強調した。

（イ）この第2期正常化政策は第1期と同様の条件の下で行われる予定であるが、第1期政策では、2万5千名の移民・難民が恩恵を受けたとされている。UNHCRの最新の統計では、2016年12月1日時点でモロッコには6707名の難民・庇護要請者

が存在するとされ、このうち4597名が難民申請者であり、国別では、シリア（3116名）、イエメン（458名）、コートジボワール（290名）、コンゴ（民）（175名）、中央アフリカ（165名）、イラク（136名）、カメルーン（63名）、パレスチナ（49名）、ギニア（26名）、マリ（13名）が多数を占めている。また、2110名の庇護申請者の国別内訳は、カメルーン（552名）、コートジボワール（295名）、ギニア（257名）、コンゴ（民）（240名）、マリ（138名）、中央アフリカ（54名）、イラク（19名）、パレスチナ（14名）となっている。なお、シリア難民は特別の難民地位を与えられることから庇護申請者はいない。

## 2 治安

### （1）ISILを支持する8名の過激主義者のテロ細胞の解体

（ア）1日、中央司法捜査局（BCIJ）はフェズ及びタンジェにてISILを支持する8名の過激主義者からなるテロ細胞を解体した。このテロ細胞の中には、2003年にモロッコ国内外においてテロ攻撃を計画していた仏人主導テログループで活動し、テロ容疑で服役していた元受刑者2名がいた。

（イ）捜査により、認可されていない猟銃、大量の弾薬、刃物類、「ジハード」を扇動する文書及び疑わしい化学式が記載された書類が押収されるとともに、モロッコ人ジハード志願兵のリクルートや派遣の調整において、このテロ細胞のメンバーがISILで活動する者と緊密な関係を有することが明らかになっている。

### （2）仏で解体されたテロ細胞の連絡要員の逮捕

（ア）3日、BCIJは情報当局からの情報提供に基づき、ISIL支持者の危険人物を逮捕した。同者は、ISILの対外作戦司令部と11月19日に仏当局により解体されたテロ細胞間の連絡要員を務めていた。

（イ）この容疑者はその調整任務の一環として、トルコ・シリア国境でISILの複数のメッセンジャーと会い、仏でテロ攻撃を準備し、逮捕された要員に対し、ISIL司令部の命令を伝達するよう指示されていた。また、同者は偽造パスポートを利用して独経由で仏に潜入したと考えられている。

### （3）ISILを支持する2名の過激主義者の逮捕

（ア）4日、国家司法警察（BNPJ）は国土監視総局（DGST）と連携し、カサブランカで活動していたISILを支持する2名の過激主義者を逮捕した。

（イ）捜査により、この2名の容疑者はISILの思想に傾倒し、ISILの考えに賛同しており、モロッコの重要施設でテロ攻撃を実施するために、爆発装置の製造方法を手に入れようとしていた。

## <外交・国際関係>

### 1 アフリカ関係

#### (1) モハメッド6世国王のナイジェリア公式訪問

(ア) 1日から3日まで、モハメッド6世国王は、ムーレイ・イスマイル王子とともにナイジェリアを公式訪問した。国王の今次ナイジェリア公式訪問には、エル・ヒンマ国王顧問、ズナギ国王顧問、メズアール外務・協力大臣、トゥフィク永代財産・イスラム宗教大臣、ブーサイド経済・財政大臣、アハヌーシュ農業・海洋漁業大臣、ブリタ外務・協力大臣付特命大臣ほかが同行した。

(イ) 2日、モハメッド6世国王はブハリ・ナイジェリア大統領と会談した後、同大統領とともに、ナイジェリアの肥料産業開発のための戦略パートナーシップの発表式典を執り行った。このパートナーシップは、両国はナイジェリアにおける肥料生産プラットフォームの設置を目指し、とりわけ①競争的な価格でナイジェリアの国内市場に肥料を確保し、②ローカルな肥料ブレンドの構造を開発するためのノウハウを共有、③研究開発を推進し、④地場供給ネットワークを強化しつつ、⑤既存の農業システムの拡大を目指すものである。具体的には、王立リン公社（OCP）とダンゴット・グループがナイジェリアにおいて肥料生産のための統合工場を建設することとなる。

(ウ) 3日、モハメッド6世国王はブハリ・ナイジェリア大統領とともに、ナイジェリア・モロッコ間のガス・パイプライン・プロジェクトのローンチング式典を執り行った。地域経済の統合に資するこのプロジェクトは、ベナン、トーゴ、ガーナ、コートジボワール、ギニア、セネガル、モーリタニアのオフショア区間を通過し、モロッコと欧州に至るものであり、今後このプロジェクトの実現可能性について具体的な調査が行われる。また、両首脳は、タンジェ・ラゴス間の高速道路の建設を加速化することで合意した。

(エ) 両首脳はまた、以下の政府間協定・民間セクター協定の署名式を執り行った。署名された協定は以下のとおり。

- ① 外交・公用旅券保持者に対する査証免除協定
- ② 航空サービス協定
- ③ 海洋漁業分野における協力協定
- ④ 農業分野にかかる覚書
- ⑤ MASENとナイジェリア・エネルギー省間の再生可能エネルギー協力協定
- ⑥ ナイジェリア・ソブリン投資庁（NSIA）とIthmar Al Mawarid（Ithmar Capital、モロッコ・ソブリン・ファンド）間の戦略パートナーシップ協定
- ⑦ NSIAとIthmar Capital間の覚書
- ⑧ 投資促進・保護協定
- ⑨ 持続可能な開発のためのモハメッド6世国王財団、職業訓練雇用促進公社（OFFPPT）、ナイジェリア「Girls Child Concerns」協会間の覚書
- ⑩ モロッコ炭化水素鉱山公社（ONHYM）と国家地質調査庁（NGSA）間の科

#### 学・技術協力枠組み協定

- ⑪ モロッコCredit Agricole社とNigeria Incentive Based Risk Sharing System for Agriculture Lending(N I R S A L)社間の覚書
- ⑫ モロッコ人民中央銀行とHeirs Holdings社間の潜在的協力覚書
- ⑬ ナイジェリアにおけるパラメトリック技術を用いた保険のための協定
- ⑭ タンジェ・地中海特別庁(T M S A)とナイジェリア港湾当局(N P A)間の協力枠組み協定
- ⑮ モロッコ運輸・物流公社(S N T L)とナイジェリア輸出促進評議会(N E P C)間の貿易・物流ジョイントベンチャー設立のための覚書
- ⑯ カサブランカ証券取引所(C S E)とナイジェリア証券取引所(N S E)間の覚書
- ⑰ モロッコ・キャピタル市場局(A M M C)とSEC Nigeria間の覚書
- ⑱ 物流ハブ開発覚書
- ⑲ アティジャリワファ銀行とUnited Bank For Africa (UBA-Nigeria)間の覚書

#### (2) シャバット・イスティクル党(P I)党首の発言

(ア) 24日、シャバットP I党首は、モーリタニアがモロッコの領土の一部である旨発言した。これに対し、26日、モロッコ外務・協力省は、これを危険で無責任な発言であるとして強く否定、アハヌーシュRN I党首はベンキラン首相との会談後、かかる発言を行う人々と連立を組むことは不適切である旨発言した。シャバット党首の発言は、P I党内部からも多くの批判が寄せられている。

(イ) この発言を受け、27日朝、モハメッド6世国王はアブデル・アジズ・モーリタニア大統領と電話会談を行った。この電話会談において、モハメッド6世国王は、アブデル・アジズ大統領に対し、数世紀にわたる家族的な両国間の良好な善隣関係や連帯を繰り返し表明した。また、国王は同大統領に対し、モロッコは国際法に則ってモーリタニアの領土の一体性を承認している旨保証した。両国首脳は、両国の二国間関係を傷つけるいかなる試みにも、その保全のために決意をもって臨む旨合意した。また、モハメッド6世国王の命を受け、28日、ベンキラン首相とブリタ外務・協力大臣付特命大臣がアブデル・アジズ大統領を表敬し、シャバット党首の発言を非難するとともに、この発言はモロッコ政府の如何なる立場を表すものではないとして、同大統領の理解を求めた。

## 2 欧州関係

### ● EU・モロッコ農業協定に関するEU司法裁判所判決の発出

(1) 21日、EU司法裁判所は、過去の解釈とは異なり、2012年にEU・モロッコ間で締結された自由貿易協定が西サハラに適用されないと評するとともに、その結果として、ポリサリオにより提起された訴えを退ける判決を発出した。2015年12月

10日の第1審判決はモロッコの怒りを呼び起こし、EU理事会は上級審に控訴していた。この第1審判決は、農産品及び漁業製品の相互自由化措置にかかる2012年協定を無効とするとともに、同一の領土的適用範囲を有する2000年に承認されたEU・モロッコ・アソシエーション協定を無効としていた。

(2) EU司法裁判所は、第1審の無効判決が、国連によって認められた西サハラの「独立した別個の地位」を考慮に入れることを怠ったとし、「アソシエーション協定及び自由貿易協定の領域範囲を定義するモロッコ王国の領土が西サハラを含むと考えることは認められず、それゆえ、これらの協定がこの領域に適用されると考えることも認められない」と規定した。

(3) これに対し、21日、モロッコ外務・協力省は、EU・モロッコ農業協定にかかるポリサリオ戦線の訴えを棄却したEU司法裁判所判決に留意する旨のコミュニケを発出した。また、同日、メズアール外務・協力大臣とモゲリーニ欧州委員会外務・安全保障政策上級代表は共同コミュニケを発出し、ポリサリオの提訴が認められず、EU理事会による控訴が認められた旨確認しつつ、EU・モロッコ農業協定は引き続き効力を有することを強調した。このコミュニケはまた、協定の今後の適用範囲について言及することなく、「全ての共通利益の分野における特惠的なパートナーシップ」の発展を呼びかけた。

### 3 ロシア関係

#### (1) メズアール外務・協力大臣とヴォロヴィエフ当地露大使との会談

(ア) 5日、メズアール外務・協力大臣は求めに応じ、ヴォロヴィエフ当地露大使と会談した。この会談で、ヴォロヴィエフ大使は、シリアの破壊は露に責任があると非難したと報じられているモロッコ政府高官（注：ベンキラン首相とみられている）の発言にかかる露政府の懸念を表明した。

(イ) これに対し、メズアール大臣はまず、昨年モハメッド6世国王の訪露の際に締結された深化した戦略パートナーシップ宣言に象徴される露との強固な関係を保全するモロッコの意思を強調した。また、シリア危機にかかるモロッコの立場、すなわち、①シリアの国家の統一と領土の一体性を保全しつつ、同国の安定を保障する政治的解決に対する取組、②シリア危機によって生じている重大な人的悲劇に対する懸念、③モハメッド6世国王の命により、シリア国民の苦痛を和らげるために取られた具体的な各種取組（ザアタリ・キャンプ野戦病院の展開、当地シリア難民の特別的な待遇、人道支援の提供）、④シリア危機の解決が、現地に展開できる列強国を中心とした国際社会の強い関与を必要とすることを再度表明した。

(ウ) また、メズアール大臣は、モロッコが、他の国際的な諸問題と同様に、シリア危機に関する露の役割と行動を尊重している旨述べた。また、同大臣は、モロッコの外交政策を司るのはモハメッド6世国王自身である旨述べた。

## (2) メズアール外務・協力大臣とボグダノフ露大統領中東担当特別代表兼外務次官との会談

(ア) 15日、メズアール外務・協力大臣はボグダノフ露中東担当大統領特別代表兼外務次官と会談を行った。両者はこの会談で、中東、北アフリカを含むアフリカ、リビア、シリア、イラク、イエメン及びパレスチナ問題にかかる最新の情勢について協議した。

(イ) ボグダノフ露大統領中東担当特別代表は、露が、モロッコと露の政策調整にかかるモハメッド6世国王の立場を高く評価しつつ、両国が友好関係強化にかかる考えを共有している旨述べた。

(ウ) また、同特別代表は、安定と安全の保護やテロ対策の分野で、両国が、中東及びアフリカ地域に関係する諸問題において近似乃至共通の立場を取っている旨述べた。

## (3) パトルシェフ露安全保障会議書記によるモハメッド6世国王表敬

(ア) 16日、パトルシェフ露安全保障会議書記はモハメッド6世国王を表敬した。この表敬で、モハメッド6世国王は、露との協力を強化・深化するためにプーチン大統領と協力していくと強調しつつ、モロッコにプーチン大統領を招待した。パトルシェフ安全保障会議書記の今次訪問は、両国間の治安分野での協力関係の深化を目的としている。この表敬には、モロッコからエル・ヒンマ国王顧問とハッサド内務大臣が同席した。

(イ) また、この表敬のほかに、パトルシェフ安全保障会議書記はハッサド内務大臣、ハムーシ国土監視総局(DGST)兼国家安全総局(DGSN)総局長、マンスーリ調査分析総局(DGED)総局長とそれぞれ会談した。パトルシェフ安全保障会議書記のモロッコ訪問はこれが初めてではなく、前回は2016年4月4日から6日までモロッコを訪問した。

## 4 米国関係

### ●モハメッド6世国王とトランプ次期米大統領との電話会談

(1) 21日、モハメッド6世国王はトランプ次期米大統領と電話会談を行った。

(2) この電話会談の中で、モハメッド6世国王はトランプ次期米大統領に対して、第45代米国大統領に選出されたことにかかる祝辞を強調した。

(3) モハメッド6世国王とトランプ次期米大統領は、強固で、深く、多様な両国間の戦略的関係の強化のために尽力することで合意した。

**<モロッコ要人の外国訪問>**

日付	国	氏名・肩書き	目的
12月1-3日	ナイジェリア	モハメッド6世国王, ムーレイ・イスマイル王子, エル・ヒンマ国王顧問, ズナギ国王顧問, メズアール外務・協力大臣, トゥフィク永代財産・イスラム宗教大臣, ブーサイド経済・財政大臣, アハヌーシュ農業・海洋漁業大臣, ブリタ外務・協力大臣付特命大臣	公式訪問, ブハリ大統領の会談, 協力協定署名式出席
12月2日	ア首連	ムーレイ・ラシッド王子	ア首連国祭日式典出席
12月28日	モーリタニア	ベンキラン首相, ブリタ外務・協力大臣付特命大臣	アブデル・アジズ大統領表敬

**<外国要人のモロッコ訪問>**

日付	国・機関	名・肩書き等	目的
12月8日	スペイン	ゾイド内務大臣, ゲルマン・ロペス・イグレシアス警察庁長官	ハッサド内務大臣, ハムーシD G S T総局長兼D G S N総局長との会談
12月15日	ロシア	ボグダノフ大統領中東担当特別代表兼外務次官	メズアール外務・協力大臣との会談
12月16日	ロシア	パトルシェフ安全保障会議書記	モハメッド 6 世国王表敬, ハッサド内務大臣との会談, ハムーシD G S T総局長兼D G S N総局長との会談, マンスーリD G E D総局長との会談

(了)